

あこう屋のたより



3月



発行責任者
校長 初村 一郎

【校長室より】

『 令和3年度 終わりにあたって 』

コロナ禍の中、「不要不急」をキーワードに渴いた思考を張り巡らせる毎日。今年度もあっという間に1年が過ぎようとしています。個々の教育活動に「なくてはならないもの」と「なくてもいいもの」をフィルターをかけながら自問自答しているのですが、果たして教育に「不要不急」があり得るのか。

確かに普通の衣食住においては、必要と思い込んでいた多くのことが、案外そうではないと気づかされましたが、教育には「急ぎではないが欠かせない」ことも数多くあり、「要」の物差しは多岐にわたります。

「なくてもいいもの」を無理やり探し出して無くそうとすると豊かさを失う。「なくてはならないもの」だけを残しても素っ気ない。例えば、画面越しに伝えることと対面で顔を見ながら話すことは違います。サプリメントで栄養を補給することと料理を楽しむことも違います。ウォーキングマシンで足腰を鍛えることと仲間と共に歩く遠足も全く違います。

何はともあれ、無駄だと思える営みも大切にこそ、生活に潤いが湧き立ちます。そんな豊かさも忘れずに、これからの日々を取り戻していきたいと思います。

さて、今年度の卒業生は、修学旅行が延期に次ぐ延期の末、とうとう感染の状況と日程が折り合わず中止せざるを得なくなり、気の毒でなりません。卒業式もまん延防止等重点措置期間と重なり、規模を大幅に縮小しての実施となりましたが、凛々しくも立派な態度で臨んでくれた姿に心を動かされました。これまで乗り越えてきた経験は、きっと、これからの糧となり財産になるはず。しっかりと前を向いて歩いて行ってほしいと思います。

以下、卒業式式辞の最後に述べた内容を転載することで、令和3年度の終わりを締めくくりたいと思います。これは卒業生だけでなく、在校生に向けても伝えたいメッセージです。

これから先、周りと比べてみたり、この道は自分に向いていないんじゃないかとか、悩んだり落ち込んだりすることがあると思います。そういうときは、今、自分がやるべきこと、やりたいことに全力を尽くしてみることです。自分の代わりはいくらでもいるし、いつ何が起きるかもわからない。時間は刻々と過ぎていくので、落ち込んでいる暇もなければ、比べる暇もない。今に全力を尽くしていれば、そんな迷いも生じません。辛抱して全力で続けるうちに、きっとやり甲斐が見えてきます。時間を1秒でも大切に、人と比べずに、自分が決めた道を全力で突き進んでほしいと思います。

2年間お世話になりました。ありがとうございました。

歴史と伝統を誇る五高の先生方、そして、生徒諸君！次のステージに向かって、**燃えろッ！**

第26代校長 初村 一郎



卒業式

3学年主任 原口正志

今年の卒業式は、卒業生にとっていつまでも忘れられない、感動的なセレモニーとなりました。在校生をはじめとして、多くの方がこの卒業式の成功のために力を結集してくれました。呼名時の元気な返事と卒業証書の授与、校長先生の式辞、在校生代表佐藤花恵さんの堂々とした送辞、それを受けての野口市郎太さんの答辞へと厳粛な雰囲気の中式典は進みました。綿密に準備された式場や卒業生が入退場する際の温かい拍手など、そのどれもが卒業式を鮮やかに彩ってくれました。卒業生は、みなさんに「ありがとう」の気持ちを伝えたかったのです。今年の卒業式に関わってくださったすべての方々に、改めて申し上げます。ありがとうございました。

特別表彰式(2月28日)

2月28日(月)に、卒業式に先立ち特別表彰式が行われました。高校3年間で学習や部活動、探究活動などで顕著な活躍をした生徒が表彰されました。各種表彰の内容と表彰者は下記の通りです。

○長崎県教育委員会表彰	5組	野口 市郎太	
○長崎県高等学校体育連盟表彰	5組	藤原 幸海	
○体育優秀生徒表彰	5組	大橋 茶和	
○産業教育御下賜記念優秀卒業生表彰	6組	松本 桃花	
○全国看護高等学校長協会生徒表彰	6組	濱端 桃奈	
○長崎県高等学校文化連盟表彰	3組	中束 さくら	
○高校生新聞社賞	4組	関田 結	
○特別活動功労賞			
(バラモンプラン)	1組	北川 万裕子	3組 夏井 兼範
(百人一首かるた部)	3組	中束 さくら	4組 貞方 侑希
(新聞部)	1組	森 憩	6組 中島惟衣



〈寮生卒業夕食会〉



2月27日に寮生卒業夕食会を開催しました。新型コロナウイルスの関係でセレモニーのみ先に行い、食事は各自お弁当で個別で食べるという形式で行いました。今年度は男子5名、女子5名の寮生が巣立っていきました。卒業生は寮母さんへの感謝の気持ちや寮生活の思い出、今後の決意を語ってくれました。親元を離れての寮生活は色々大変なことも多かったと思いますが、卒業後はこの経験がきっと活かされると思います。卒業後のみなさんの活躍を期待しています！

令和3年度卒業生の141名が

五島高校石城会に入会しました！

2月28日(月)に令和3年度卒業生の同窓会入会式を開催しました。最初に吉野榮一全国石城会会長(五高10回卒)から入会に際してのあいさつがあり、島を離れ新たな生活を始める後輩たちへ、サポーター募金(遠征費として各部3万円の補助金)の活動や母校と故郷(五島)の発展のため協力してほしいという願いがありました。卒業生を代表して浦健史郎君が吉野会長を前に、「先輩方が築いてこられたこの五島高校の歴史を私達がしっかりと受け継ぎ、次に渡していく決意をしました。母校と郷土の発展に尽力していきます。」と力強く入会のことばを述べました。

会員となった卒業生の皆様には、進学・就職先で最寄りの支部(東京6月、長崎7月、大阪2月)や帰省した際に五島での懇親会(8月中旬に毎年開催)へ積極的に出席し、同窓会の目的である会員の相互融和を図ってほしいと切に願っています。



次年度に向けて “Pro-Active”から”Keep Going”へ

第1学年 西村 卓也

高校生としての1年が終わろうとしています。この1年、どのような1年間だったのでしょうか。入学前に思い描いた高校生活と違い、非常にタフな1年だったことと思います。この1年間は”Pro-Active(主体性・自ら求めていく)”ことをテーマに取り組んできました。その営みの中で皆さんは確実に「進化」しているはずです。「一歩踏み出せば、世界は変わる」のです。来年度は、さらに進化を続けていくという意味の、”Keep Going”を標榜し、他の何者でもない「自分」の未来のための礎を築いて欲しいと願っています。

いよいよ中堅学年。皆さんの今後の更なる飛躍に向けて、一緒に頑張っていきましょう！

次年度に向けて 「突破」

第2学年主任 辻 忠

第2学年では、「超えろ！」というスローガンを掲げて取り組んできました。第5波、第6波と断続的なコロナ禍が訪れ、多くの活動や行事が中止・縮小されました。そのような中でも奇跡的に実施できた修学旅行や同日で開催された体育祭・文化祭などでは、限られた活動でありましたが貴重な経験ができたと思います。不遇な環境が続く中でも「超えろ！」の姿勢が随所に見られたことを嬉しく思っています。

さて、いよいよ最高学年となります。1年後の『合格』への道中にある、今までにない分厚く高い無数の壁を「突破」して、君たちのさらなる成長を期待しています。

3年生進路結果報告

進路指導部



- ① 国立大学合格者数（学校推薦型、総合型、一般選抜）62名
- ② 難関大合格者数3名
- ③ スポーツコース：国土舘大学、福岡大学、至学舘大学、大阪商業大学、徳山大学、長崎国際大学、各種学校合格
- ④ 衛生看護科：准看護師資格試験全員合格

「本物になる」というスローガンのもと、それぞれが進路実現に向けて頑張りました。早く進路が決定した生徒も、まだ決まっていなかったクラスメートと共に、最後まで粘り強く学習に取り組んでいました。他者を思いやる優しい生徒が多く、我々が助けてもらう場面も多い1年間でした。学習、部活動、行事など、いろいろな面で活躍してくれました。卒業生の更なる活躍に期待しています。

高校入試 合格発表

おめでとうございます



高校入試が3月8日・9日（火・水）に行われ、16日（水）に合格発表を行いました。16日は9時30分の合格発表前から受検者のみなさんが合格発表場所周辺に集まっていました。発表時には歓喜の音が響き渡りました。

前期選抜・離島留学特別選抜・後期選抜あわせて、普通科普通コース115名、普通科スポーツコース10名、衛生看護科17名のみなさんが合格しました。合格おめでとうございます。

来月、みなさんが入学してくることを楽しみに待っています。

離任教職員の紹介

新任地での活躍をお祈りします



名前	教科等	異動先
初村 一郎	校長	県教育委員会
岡崎 天一	教頭	県教育委員会
原口 正志	国語	西陵高校
平山 豪	保体	清峰高校
桑戸 りな	看護	鶴南特別支援学校 西彼杵分教室
草野 裕希	音楽	上対馬高校
鶴林 慎平	地歴（日）	長崎鶴洋高校

名前	教科等	異動先
鎌田 郁子	家庭	奈留高校
吉岡 晃輝	事務・主事	佐世保工業高校
森 量子	事務・主事	島原農業高校
高橋 絢	英語	退職
山本 文隆	理科（物）	退職
濱村 聡人	事務・現業	退職